

慶應義塾保険学会

日本のエネルギーテーマに研究会

慶應義塾保険学会は
10月25日、東京都港区
の慶應義塾大学三田キ

ャンパスで、今年度2
回目となる研究会を開
催した。今回は環境カ

ウンセラード第
一種放射線取扱
責任者の資格を
持つ河島義郎氏

が「原発事故の
教訓と日本のエ
ネルギー」と題

して講演した。
河島氏ははじめに、
これまでの日本のエネ

ルギー事情について解
説。エネルギー資源の
産出が少ない日本で、

原子力発電が純国産エ
ネルギーとして位置付
けられてきた流れを説
明した上で、二酸化炭

素の排出量面での優位
性や、発電の過程で生
まれるプルトニウムに
よる長期的な利用が期
待できることなど、原
子力発電の利点を挙げ
た。

また、福島第一原発
の事故について、最新
の技術を生かして原子
力を運用することや、
被ばくの仕組みとリス
クについて理解した上
でリスクを管理するこ

となど、適切な対応の
重要性を強調。「正当
太陽光発電などの新工



河島氏



学生や業界人が多数参加

「原発事故の
教訓と日本のエ
ネルギー」と題

して講演した。
河島氏ははじめに、
これまでの日本のエネ

ルギー事情について解
説。エネルギー資源の
産出が少ない日本で、

原子力発電が純国産エ
ネルギーとして位置付
けられてきた流れを説
明した上で、二酸化炭

素の排出量面での優位
性や、発電の過程で生
まれるプルトニウムに
よる長期的な利用が期
待できることなど、原
子力発電の利点を挙げ
た。

また、福島第一原発
の事故について、最新
の技術を生かして原子
力を運用することや、
被ばくの仕組みとリス
クについて理解した上
でリスクを管理するこ

となど、適切な対応の
重要性を強調。「正当
太陽光発電などの新工

に怖がるこ
とはなかなか
難しい」と
いう寺田
寅彦の言葉
を引用し、
リスクにつ
いて正確に
理解するこ
とが不可欠
だとした。
さらに、
エネルギーについても解
説。二酸化炭素の排出
が少ないことや輸入に
頼る石油を代替する国
産エネルギーとしての
新エネルギー優位性を
解説した上で、現在計
画されているさまざま
な新エネルギー計画な
どもに言及。それぞれ
の特徴や、将来の実用
化が期待される核融合
エネルギーについて触
れた。